

Business Report

ONNO'S VIEW

第70期のご報告

2017年4月1日～2018年3月31日



小野薬品工業株式会社

証券コード 4528



Dedicated to Man's Fight against Disease and Pain

病気と苦痛に対する人間の闘いのために

当社は、この企業理念のもと、いまだ満たされない医療ニーズに応えるため、真に患者さんのためになる革新的な新薬の創製を目指し、挑戦を続けています。



株主の皆さまには、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。
平素は格別のご支援、ご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

当社は、昨年創業300年を迎え、新たな一步を踏み出しました。

第70期(2017年4月1日から2018年3月31日まで)につきましては、抗悪性腫瘍剤「オプジーボ点滴静注」が、2017年2月より薬価が50%引き下げられた影響などから売上は減少しましたが、前期に効能追加された腎細胞がん、頭頸部がん、当期中に効能追加された胃がん等へ使用が拡大したことと、オプジーボに係るロイヤルティ収入が大幅に増加したことから、売上収益は増収となりました。

利益面では、オプジーボ関連の研究開発費の増加、およびオプジーボの活動費や「パーサピブ静注透析用」の新発売等に係る営業経費の増加に加え、前期に抗PD-1抗体特許侵害訴訟に伴う和解一時金収入を計上した反動もあることから減益となりました。

新薬創製の成功確率が年々低下し、研究開発コストが増大するなかで、医療制度改革による種々の医療費抑制政策が強化されるなど、厳しい環境が続いています。当社は、研究開発力をさらに高めるとともに、将来の海外事業の拡大に向けて、次のとおり取り組んでいきます。

成長戦略

製品価値 最大化	持続的な成長を実現するため、オブジーボをはじめとする製品の価値最大化を目指します。積極的な研究開発活動、全社横断的な部門間連携と人材育成機能の強化を通じて、早期の上市・効能追加取得、上市から最短でのピークセールス達成を目指します。また、製品ライフサイクルのステージごとの環境変化を機敏に捉え、常に競争優位性を担保する戦略立案を実現し、各製品のポテンシャルを最大限引き出せるよう取り組みます。
R&Dの変革	画期的新薬を継続的に創出するために研究開発力を強化します。化合物オリエントという創薬手法を基盤として、がんや免疫疾患、中枢神経疾患を重点領域に定めて経営資源を集中します。また、外部との研究・創薬提携も拡充することで、ファーストインクラスが狙える独自性の高いパイプラインの充実を図ります。さらに、医療ニーズの高い分野での革新的な化合物の導入や新技術の獲得にも積極的に取り組みます。
海外への挑戦	自社で創製した新薬を世界中に提供できるよう、特に抗がん剤などのスペシャリティー製品について、海外での自社販売を目指していきます。すでに、韓国・台湾では、現地法人を設立して自社製品の販売を開始しており、今後は欧米での自社販売活動も視野に入れて、開発体制などの整備・強化にも努めます。
企業基盤の強化	さまざまな環境の変化に対応し、厳しい企業間競争に打ち勝つため、人材育成や多様性の向上に取り組むなど、企業基盤の強化に引き続き取り組んでいきます。さらに、企業の社会的責任(CSR)活動では、すべてのステークホルダーに対して社会的責任を果たすべく、活動を推進していきます。

わたしたちは、病気で苦しんでいる世界中の患者さんに、医療現場のニーズに沿った革新的な新薬を一日も早くお届けできるよう、一丸となって挑戦を続けていきます。株主の皆さまにおかれましては、今後とも一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



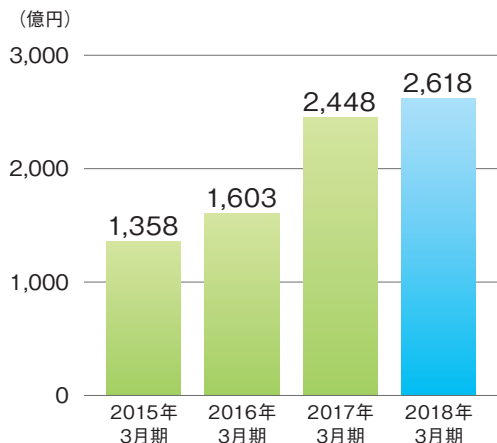
1968年(昭和43年)に中央研究所(現在の水無瀬研究所)の建設を記念して建立された石碑。小野薬品の企業理念がここに刻まれています。

代表取締役社長 **相良 暁**



売上収益

2,618億円 前期比 **7.0%増**

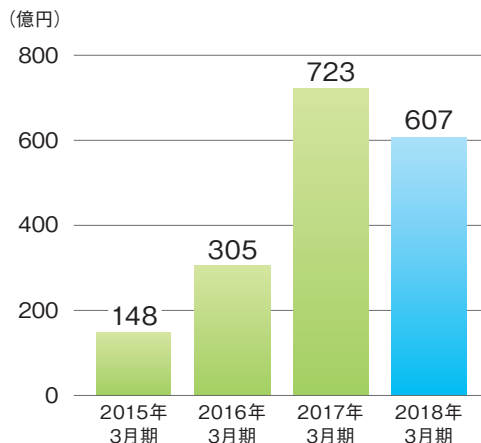


オプジーボの国内売上が減少するもロイヤルティ収入の増加等から増収

抗悪性腫瘍剤「オプジーボ点滴静注」は、2017年2月より薬価が50%引き下げられたものの、効能追加等により売上減を最小限に留めました。また、その他の主要新製品の売上増に加え、ロイヤルティ収入が大幅に増加した結果、当期の売上収益は前期比170億円(7.0%)増の2,618億円となりました。

営業利益

607億円 前期比 **16.0%減**

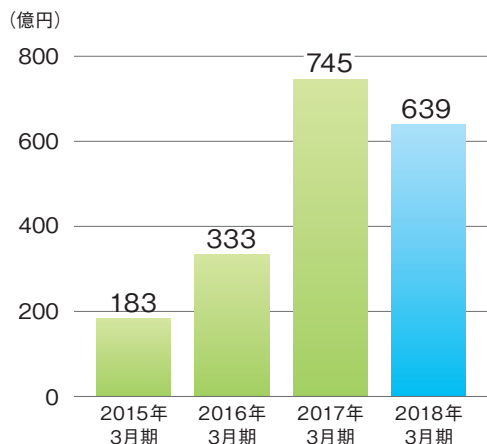


販売費及び一般管理費の増加と前期の訴訟和解一時金計上の影響から減益

売上収益が増加したものの、研究開発費を含む販売費及び一般管理費が増加しました。また、前期に抗PD-1抗体特許侵害訴訟に伴う和解一時金178億円などを計上した反動もあり、当期の営業利益は前期比116億円(16.0%)減の607億円となりました。

税引前当期利益

639億円 前期比 **14.2%減**

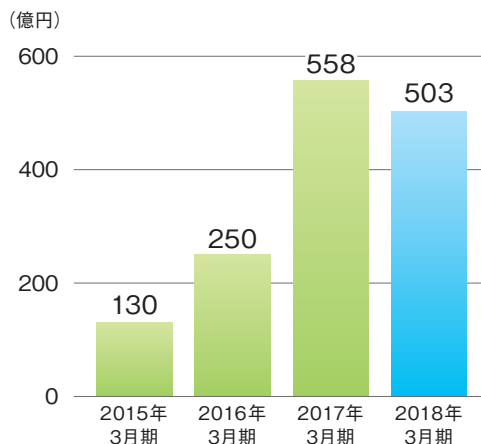


金融収支が前期よりも増加するものの、営業減益により減益

金融収支は前期比4億円増の32億円となりましたが、営業利益の減少により、税引前当期利益は前期比106億円(14.2%)減の639億円となりました。

親会社の所有者に帰属する当期利益

503億円 前期比 **9.9%減**



研究開発費の増加に伴い、試験研究費の税額控除額が増加したものの、減益

税引前当期利益は14.2%減少しましたが、一方で研究開発費の増加に伴い、試験研究費の税額控除額が増加したことにより、親会社の所有者に帰属する当期利益は前期比55億円(9.9%)減の503億円となりました。

連結業績ハイライト

財政状態

(単位:百万円)

	前期末 2017年3月31日	当期末 2018年3月31日
流動資産	271,033	209,464
非流動資産	346,428	399,761
資産合計	617,461	609,226
負債合計	93,250	79,607
資本合計	524,211	529,619
負債及び資本合計	617,461	609,226

損益の状況

(単位:百万円)

	前期 自2016年4月1日 至2017年3月31日	当期 自2017年4月1日 至2018年3月31日
売上収益	244,797	261,836
売上総利益	179,273	196,445
販売費及び一般管理費	△ 62,049	△ 68,055
研究開発費	△ 57,506	△ 68,821
営業利益	72,284	60,684
税引前当期利益	74,540	63,922
当期利益	56,036	50,397
親会社の所有者に帰属する当期利益	55,793	50,284

連結持分変動計算書(要旨)

(単位:百万円)

	資本金	資本 剰余金	自己 株式	その他の 資本の 構成要素	利益 剰余金	親会社の 所有者に 帰属する持分	非支配 持分	資本 合計
2017年4月1日残高	17,358	17,144	△59,382	51,752	492,237	519,110	5,101	524,211
当期包括利益合計	-	-	-	17,193	50,284	67,477	130	67,607
所有者との取引額等合計	-	30	21,234	△924	△82,536	△62,196	△3	△62,199
2018年3月31日残高	17,358	17,175	△38,148	68,021	459,985	524,390	5,228	529,619

▶より詳しい業績の情報は、当社のIRサイトをご覧ください。 http://www.ono.co.jp/jpnw/ir/ir_library.html

小野薬品 IR

検索

キャッシュ・フローの状況

(単位:百万円)

	前期 自2016年4月1日 至2017年3月31日	当期 自2017年4月1日 至2018年3月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー	74,450	15,727
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 17,989	△ 34,189
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 20,552	△ 62,549
現金及び現金同等物の増減額	35,909	△ 81,011
現金及び現金同等物に係る為替変動による影響額	△ 71	△ 40
現金及び現金同等物の期末残高	146,323	65,273

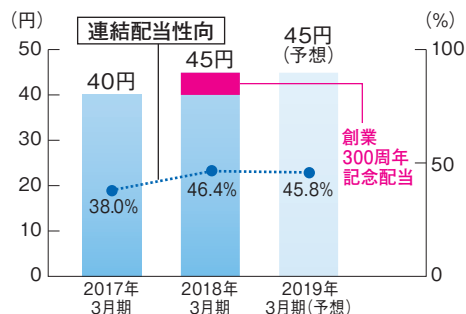
主要経営指標

	前期末 2017年3月31日	当期末 2018年3月31日
親会社所有者帰属持分比率 (%)	84.1	86.1
1株当たり親会社所有者帰属持分 (円)	979.42	1,019.97

	前期 自2016年4月1日 至2017年3月31日	当期 自2017年4月1日 至2018年3月31日
基本的1株当たり当期利益 (円)	105.27	97.00

利益還元方針

〈年間配当実績と次期予想〉



株主の皆さまへの当期の期末配当金につきましては、1株につき20円とさせていただきます。これにより、年間にお支払いする配当金は、中間配当金25円(創業300周年記念配当の1株当たり5円を含む)と合わせて1株につき45円となります。なお、次期の配当金につきましては、1株につき45円(中間22.5円、期末22.5円)を予定しています。

主な製品の売上高の状況と見込み

製品名	2017年度 売上高(実績) (億円)	対前期 増減率	2018年度 売上高(見込み) (億円)	対前期 増減率
オプジーボ点滴静注	901	△ 13.3%	900	△ 0.1%
グラクティブ錠	274	△ 6.7%	260	△ 5.1%
オレンシア皮下注	141	+ 22.0%	165	+ 16.8%
フォシーガ錠	111	+ 41.8%	130	+ 17.4%
オパルモン錠	144	△ 15.6%	105	△ 26.9%
イメンド／プロイメンド	99	+ 0.7%	105	+ 5.5%
リカルボン錠	109	△ 3.3%	95	△ 13.0%
リバスタッチパッチ	89	+ 0.3%	90	+ 1.3%
カイトロリス点滴静注用	55	+ 182.4%	65	+ 17.4%
パーサビブ静注透析用	34	+ 1660.3%	55	+ 60.4%
オノンカプセル	55	△ 19.5%	45	△ 17.6%
オノアクト点滴静注用	56	△ 1.8%	40	△ 28.8%
ステープラ錠	41	△ 13.4%	35	△ 15.3%
オノンドライシロップ	33	△ 18.8%	25	△ 25.0%

「オプジーボ®点滴静注」、「ヤーボイ®点滴静注液」との併用療法で初めての承認取得

抗PD-1抗体「オプジーボ®点滴静注」は本年5月、抗CTLA-4抗体「ヤーボイ®点滴静注液*」との併用療法において、悪性黒色腫に対する承認を取得しました。この承認は、がん免疫療法薬2剤の併用療法における国内で初めての承認です。悪性黒色腫に対してはこれまで、「オプジーボ®点滴静注」および「ヤーボイ®点滴静注液」それぞれが単剤投与で承認されていました。今回の併用療法の承認により、化学療法による治療歴のない悪性黒色腫患者さんにとっての治療選択肢が広がりました。「オプジーボ®点滴静注」と「ヤーボイ®点滴静注液」の併用療法は、現在、化学療法による治療歴のない腎細胞がんについても承認申請中です。

*「ヤーボイ®点滴静注液」(一般名:イピリムマブ)

T細胞の活性化を抑制する調節因子(CTLA-4)と結合する遺伝子組み換えヒトモノクローナル抗体です。CTLA-4を阻害することで、腫瘍浸潤エフェクターT細胞などの、T細胞の活性化と増殖を促進します。



次期の見通し(2019年3月期)

売上収益

2,770億円 前期比 **5.8%増**

抗悪性腫瘍剤「オブジーボ点滴静注」は、薬価引き下げの影響はあるものの効能追加された腎細胞がん、頭頸部がん、胃がん等での使用拡大を図ることにより、ほぼ横ばいの900億円を見込んでいます。一方で、ロイヤルティ収入の増加、およびその他の主要新製品での売上拡大を見込んでいることから、次期の売上収益は前期比152億円(5.8%)増の2,770億円を予想しています。

税引前当期利益

650億円 前期比 **1.7%増**

金融収支は前期比3億円増の35億円を見込んでおり、次期の税引前当期利益は前期比11億円(1.7%)増の650億円を予想しています。

営業利益

615億円 前期比 **1.3%増**

持続的な新薬の創出に向けて積極的な投資を行っており、研究開発費の増加を見込んでいます。また、オブジーボ関連の活動経費の増加などにより、販売費及び一般管理費の増加も見込んでいることから、次期の営業利益は前期比8億円(1.3%)増の615億円を予想しています。

親会社の所有者に帰属する当期利益

505億円 前期比 **0.4%増**

税引前当期利益が11億円増加することを見込んでおり、次期の親会社の所有者に帰属する当期利益は、前期比2億円(0.4%)増の505億円を予想しています。

研究開発活動・開発品の主な進捗状況

研究開発活動

わたしたちは、「真に患者さんのためになる医薬品を開発して社会に貢献する」、これを研究開発理念として、これまで克服されていない病気や、いまだ患者さんの治療満足度が低く、医療ニーズの高い疾患領域に挑戦し、独創的かつ画期的な医薬品の創製に向けて努力を積み重ねています。

開発品の主な進捗状況

(2018年4月26日現在)

国内	製品名(開発コード)/一般名	予定効能	開発ステージ			
			PI	PII	PIII	申請
	オブジーボ点滴静注/ニボルマブ	悪性胸膜中皮腫				
	ヤーボイ点滴静注液/イピリムマブ	腎細胞がん				
	ONO-7702/エンコラフェニブ	悪性黒色腫				
	ONO-7703/ピニメチニブ	悪性黒色腫				
	ONO-5371/メチロシチン	褐色細胞腫				
	オブジーボ点滴静注/ニボルマブ	食道がん				
		食道胃接合部がん及び食道がん				
		小細胞肺がん				
		肝細胞がん				
		膠芽腫				
		尿路上皮がん				
		卵巣がん				
	ヤーボイ点滴静注液/イピリムマブ	大腸がん				
		非小細胞肺がん				
		小細胞肺がん				
		頭頸部がん				
		胃がん				
		悪性胸膜中皮腫				
	カイクロリス点滴静注用/カルフィルゾミブ	食道がん				
		尿路上皮がん				
		多発性骨髄腫(用法・用量追加)				
		がん悪液質				
	ONO-7643/アナモレリン	大腸がん				
	ONO-7702/エンコラフェニブ	大腸がん				
	ONO-7703/ピニメチニブ	大腸がん				
	ONO-7701	悪性黒色腫				
	オレンシア点滴静注用/アバタセプト	ループス腎炎				
	オレンシア皮下注/アバタセプト	未治療の関節リウマチ				
		一次性シェーグレン症候群				
		多発性筋炎・皮膚筋炎				
	ONO-1162/イバブラジン	慢性心不全				
	ONO-5704	変形性関節症				
	オノアクト点滴静注用/ランジオロール	心機能低下例における頻脈性不整脈(小児)				
		心室性不整脈				
		敗血症に伴う頻脈性不整脈				
	オブジーボ点滴静注/ニボルマブ	固形がん(子宮頸がん、子宮体がん及び軟部肉腫)				
		中枢神経系原発リンパ腫/精巣原発リンパ腫				
		多発性骨髄腫				
		ウイルス陽性・陰性固形がん				
		敗血症				

国内	製品名(開発コード)/一般名	予定効能(地域)	開発ステージ			
			PI	PII	PIII	申請
	ヤーボイ点滴静注液/イピリムマブ	ウイルス陽性・陰性固形がん	▶	▶		
	ONO-4686	固形がん	▶	▶		
	ONO-4059/チラブルチニブ	中枢神経系原発リンパ腫	▶	▶		
	ONO-4482/Relatlimab	悪性黒色腫	▶	▶		
	ONO-7807	固形がん	▶	▶		
	ONO-2370/オピカボン	パーキンソン病	▶	▶		
	ONO-5704	腱・靭帯付着部症	▶	▶		
	オブジーボ点滴静注/ニボルマブ	胆道がん	▶	▶		
	ONO-4481/Urelumab	固形がん	▶	▶		
	ONO-4687/Cabiralizumab	固形及び血液がん	▶	▶		
	ONO-4483/Lirilumab	固形がん	▶	▶		
	ONO-4578	固形がん	▶	▶		
	ONO-4059/チラブルチニブ	自己免疫疾患	▶	▶		
国外						
	オブジーボ点滴静注/ニボルマブ	小細胞肺癌(米国) 膠芽腫(欧米) 小細胞肺癌(欧州・韓国・台湾) 胃がん(欧米) 食道がん(欧米・韓国・台湾) 肝細胞がん(欧州・韓国) 多発性骨髄腫(欧米) 食道胃接合部がん及び食道がん(欧米・韓国・台湾) 悪性胸膜中皮腫(欧米) 大腸がん(欧州)	▶	▶		
	ヤーボイ点滴静注液/イピリムマブ	腎細胞がん(韓国・台湾) 非小細胞肺癌(韓国・台湾) 小細胞肺癌(韓国・台湾) 頭頸部がん(韓国・台湾) 胃がん(韓国・台湾) 食道がん(韓国・台湾) 尿路上皮がん(韓国・台湾)	▶	▶		
	ONO-7702/エンコラフェニブ	大腸がん(韓国) 悪性黒色腫(韓国)	▶	▶		
	ONO-7703/ビニメチニブ	大腸がん(韓国) 悪性黒色腫(韓国)	▶	▶		
	オブジーボ点滴静注/ニボルマブ	びまん性大細胞型B細胞リンパ腫(欧米) 濾胞性リンパ腫(欧米) 中枢神経系原発リンパ腫/精巣原発リンパ腫(欧米) 前立腺がん(欧米) 固形がん(トリプルネガティブ乳がん、胃がん、膵臓がん、小細胞肺癌、尿路上皮がん、卵巣がん)(欧米) ウイルス陽性・陰性固形がん(欧米・韓国・台湾)	▶	▶		
	ヤーボイ点滴静注液/イピリムマブ	ウイルス陽性・陰性固形がん(韓国・台湾)	▶	▶		
	ONO-4059/チラブルチニブ	B細胞リンパ腫(欧州) シェーグレン症候群(欧米)	▶	▶		
	ONO-7579	固形がん(欧米)	▶	▶		
	オブジーボ点滴静注/ニボルマブ	血液がん(T細胞リンパ腫、多発性骨髄腫、慢性白血病、他)(欧米) 慢性骨髄性白血病(欧米) C型肝炎(欧米) 敗血症(米国)	▶	▶		
	ONO-4059/チラブルチニブ	B細胞リンパ腫(米国)	▶	▶		
	ONO-7475	急性白血病(米国)	▶	▶		
	ONO-8055	低活動膀胱(欧州)	▶	▶		

※なお、抗がん剤において、同じ予定効能(がん腫)の場合は、最も進んでいるフェーズ(開発ステージ)を記載しています。

提携活動

■ ニュリミュン社との提携契約締結

2017年11月に、スイスのニュリミュン社と、神経変性疾患領域における新規創薬標的に対する抗体医薬品の創製を目的とする創薬提携契約を締結しました。ニュリミュン社は、医療ニーズの高い重大な疾患に対する治療と予防を目的としたユニークなヒト抗体の開発に注力するバイオベンチャー企業です。当社は創製される抗体医薬品を全世界で独占的に開発・商業化する権利を保有しており、同社独自の抗体医薬創出技術を駆使し、神経変性疾患領域における革新的医薬品の創製につながることを期待しています。

■ サイクルニウム社との提携契約締結

2017年12月に、カナダのサイクルニウム社と、同社独自の次世代中分子創薬技術およびその技術により作成された化合物ライブラリを活用した創薬提携契約を締結しました。サイクルニウム社は、研究開発型の製薬企業であり、独自の技術を活用し、新規化合物の創出および開発を目指しています。当社は合成された化合物の評価を実施するとともに、得られた医薬品候補化合物を全世界で開発・商業化する権利を有することで、アンメットメディカルニーズを満たす新規中分子医薬品を創出できると期待しています。



サイクルニウム社

■ シュレーディングー社との提携契約締結

2017年12月に、米国シュレーディングー社と、複数の創薬標的に関する創薬提携契約を締結しました。シュレーディングー社は、新薬創製の効率化を加速・最大化するための最先端の分子シミュレーションやソフトウェアの開発事業、それらの周辺サービスを提供するリーディング企業です。シュレーディングー社は、同社独自のコンピューター創薬技術を駆使し、当社が提示する創薬標的に対する新規低分子化合物を創製します。本契約により、当社の革新的医薬品のラインナップが一層拡充されることを期待しています。

提携活動

■ ブリストル・マイヤーズ スクイブ社との提携契約締結

2017年12月に、米国ブリストル・マイヤーズ スクイブ社（以下、BMS社）と、当社が創製し、開発中のプロスタグランジンE₂受容体の1つであるEP₄受容体の選択的拮抗剤「ONO-4578」の開発および商業化についてライセンス契約を締結しました。

本契約により、BMS社は、日本、韓国、台湾、中国および東南アジア諸国連合（ASEAN）を除く、全世界における開発および商業化の権利を取得しました。なお、日本、韓国および台湾においては、両社間の腫瘍免疫プログラムにおける現行の提携契約に基づき、開発および商業化を共同で進めていきます。ONO-4578は、マウス担がんモデルにおいて免疫抑制性の腫瘍微小環境を改善することにより、抗腫瘍効果を示しています。今後、当社とBMS社は、一日も早くONO-4578をがんで苦しむ世界中の患者さんに届けることができるよう、全世界での開発を進めていきます。



ブリストル・マイヤーズ スクイブ社

■ メラス社との提携契約締結

2014年4月、オランダのメラス社と、自己免疫疾患領域での治療薬候補となる二重特異性抗体を共同で創製する最初の創薬提携契約を締結しました。当社はその契約に定められたオプション権を行使し、2018年3月、新たな創薬提携契約を締結しました。メラス社は、革新的なヒト二重特異性抗体治療薬を臨床開発する企業です。二重特異性抗体とは、2つの異なる分子に同時に結合する



メラス社

抗体です。ヒト二重特異性抗体を創製する同社独自の技術プラットフォームを用いて、当社が選択した創薬標的に結合する二重特異性抗体を作製し、自己免疫疾患領域における新薬候補化合物を創製することを目指します。なお、当社は、今回の提携により創製されるヒト二重特異性抗体を全世界で独占的に開発、製造および販売する権利を有しています。



会社の概要

■ 会社概要 (2018年3月31日現在)

社名	小野薬品工業株式会社
英文社名	ONO PHARMACEUTICAL CO., LTD.
創業	享保2年(1717年)
設立	昭和22年(1947年)
資本金	17,358,275,607円
事業内容	医療用医薬品を主体とする各種医薬品の研究、開発、製造、仕入および販売
従業員数	3,480名(連結) 3,199名(単体)

■ 主要な事業所 (2018年3月31日現在)

本社	〒541-8564 大阪市中央区久太郎町一丁目8番2号 電話 06-6263-5670 〔 登記簿上の本店所在地 大阪市中央区道修町二丁目1番5号 〕
事業所	北海道、宮城、東京、横浜、名古屋、京都、大阪、高松、広島、福岡ほか全国主要都市
工場	城東工場(大阪府)、フジヤマ工場(静岡県)
研究所	水無瀬研究所(大阪府)、福井研究所、筑波研究所(茨城県)
海外子会社	オノ・ファーマ・ユーエスエー インク(米国ニュージャージー州) オノ・ファーマ・ユーケー・リミテッド(英国ロンドン) 韓国小野薬品工業株式会社(韓国ソウル) 台湾小野薬品工業股份有限公司(台湾台北)

■ 役員 (2018年6月22日現在)

代表取締役 取締役社長	相良 暁
取締役 副社長執行役員	栗田 浩
取締役 専務執行役員	佐野 敬
取締役 常務執行役員	川瀬 和一十
取締役 常務執行役員	小野 功雄
社外取締役	加登 豊
社外取締役	栗原 潤
社外取締役	野村 雅男
常勤監査役	西村 勝義
常勤監査役	藤吉 信治
社外監査役	作花 弘美
社外監査役	菱山 泰男

株式の状況 (2018年3月31日現在)

■ 株式数

- 発行可能株式総数 1,500,000,000株
- 発行済株式の総数 543,341,400株
(自己株式29,157,614株を含む)

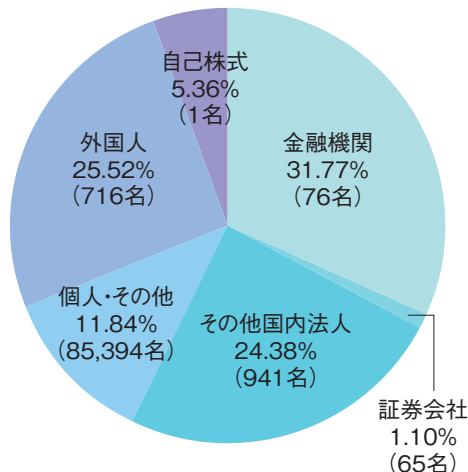
■ 株主数 87,193名

■ 大株主

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	34,230	6.65
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	32,608	6.34
ジェーピー モルガン チェース バンク 385147	18,832	3.66
明治安田生命保険相互会社	18,594	3.61
公益財団法人小野奨学会	16,428	3.19
株式会社鶴鳴荘	16,161	3.14
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口5)	9,024	1.75
株式会社三菱東京UFJ銀行	8,640	1.68
あいおいニッセイ同和損害保険株式会社	8,606	1.67
ステートストリートバンクウェストクライアントリーティ 505234	7,540	1.46

- (注) 1. 当社は自己株式29,157千株を保有していますが、上記大株主には記載していません。
 2. 持株比率は、自己株式(29,157千株)を控除して算出しています。
 3. 株式会社三菱東京UFJ銀行は、2018年4月1日付で株式会社三菱UFJ銀行に商号変更しております。

■ 所有者別の株式分布状況

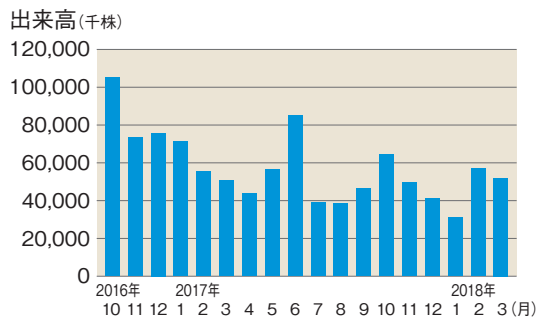
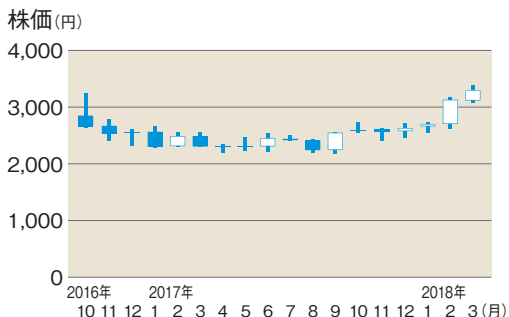


(注) 比率は、小数点第3位以下を切り捨てているため、各項目の比率を加算しても100%になりません。

■ その他株式に関する重要な事項

当社は、2017年6月13日開催の取締役会決議に基づき、自己株式を15,896,100株取得し、10月31日付で45,896,100株消却しました。

■ 株価および株式売買高の推移



株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで	株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
定時株主総会	6月中	および特別口座 の口座管理機関	三井住友信託銀行株式会社
基準日	定時株主総会・期末配当：3月31日 中間配当：9月30日	株主名簿管理人 事務取扱場所	大阪市中央区北浜四丁目5番33号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
公告の方法	電子公告により行います。ただし、事故その他やむを得ない事由により電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。 公告を掲載するホームページのアドレス http://www.ono.co.jp/	各種お問合せ先	三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-782-031 (フリーダイヤル)
上場証券取引所	東京証券取引所(証券コード4528)	郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
単元株式数	100株	同取次窓口	三井住友信託銀行株式会社 全国本支店

住所変更、単元未満株式の買取等のお申出先について

株主様の口座のある証券会社にお申出ください。なお、証券会社には口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行にお申出ください。

未払配当金のお支払いについて

株主名簿管理人である三井住友信託銀行にお申出ください。

株式に関する「マイナンバー制度」のご案内

市区町村から通知されたマイナンバーは、株式の税務関係の手続きで必要となりますので、株主様のマイナンバーにつきましては、お取引の証券会社等へお届出ください。

株式関係業務におけるマイナンバーの利用

法令に定められたとおり、株主様のマイナンバーは支払調書に記載して税務署へ提出いたします。

■ マイナンバーを記載する主な支払調書

- 配当金に関する支払調書
- 単元未満株式の買取請求など株式の譲渡取引に関する支払調書

マイナンバーのお届出に関するお問い合わせ先

- 証券口座にて株式を管理されている株主様
お取引の証券会社までお問い合わせください。
- 証券会社とのお取引がない株主様
下記のフリーダイヤルまでお問い合わせください。
三井住友信託銀行 証券代行部
電話 0120-782-031 (フリーダイヤル)

ホームページアドレス

<http://www.ono.co.jp/>

